

パネル: 企業内ナレッジマネジメントとパターン

佃 軍治†

Abstract: 本パネルでは、ソフトウェア開発プロジェクトを成功に導くことを目的とした企業内でのナレッジマネジメントの取り組み内容、取り組み方法について議論する。

Panel: Knowledge Management and Pattern

Gunji Tsukuda†

Abstract: In this panel, we discuss concrete activities about knowledge management and how to implement them in a company to succeed in software development projects.

1. ソフト開発における KM 活動の課題とパネルの目的

ソフトウェア開発プロジェクトにおいて、契約、要件定義、設計、開発、テスト、プロジェクト管理などの各場面に応じたノウハウを活用することがプロジェクトを成功に導くためのキーポイントの1つである。多くの書籍（例えば[1][2][3]）に活用可能なノウハウが公開されているが、依然として失敗するプロジェクトが多い。例えば、Standish Groupのレポート[4]によると、米国内では2000年に成功したプロジェクトはわずか28%である。ノウハウ活用という観点では、以下のような原因が考えられる。（1）公開されているノウハウは一般的過ぎて、プロジェクトでは活用できない。または、活用可能なレベルまで詳細に記述されていない。（2）技術の進歩が早く、活用可能なノウハウが公開されていない。（3）ノウハウを学習する時間がない。（4）ノウハウが多すぎて、活用可能なノウハウを見つけない。

一方、組織内には公開ノウハウの活用方法、新技術・環境に対応した独自のノウハウなど、生きたノウハウが散在している。しかし、組織内の多くのノウハウは、納期に追われ形式知化する工数が確保できないことや形式知化を行うスキル不足などの理由により、暗黙知のままの状態であり、組織内で幅広く活用できる状態になっていない。また、ノウハウを流通する仕組みが貧弱であれば、形式知化されても活用されない。

同じ失敗を繰り返さないためには、組織内の失敗事例の蓄積・活用が有効であるが、人は失敗を隠し

たがる傾向があり、失敗事例の組織的共有はさらに困難である。

本パネルでは、上記の状況を打破しプロジェクトを成功に導くことを目的とした、組織レベル、プロジェクトレベル、個人レベルにおけるナレッジマネジメントの取り組み内容、取り組み方法について議論する。

2. パネリストの紹介

- ・ 野間彰(アクト・コンサルティング)
経営コンサルタントという立場からKM活動が活発化する組織文化の創り方などについて提言して頂く。
- ・ 山本晃治(富士通研究所)
パターン活動(パターンの学習、創出、適用など)の企業内での展開方法などについて提言して頂く。
- ・ 折原良平(東芝)
SECSパイラルを効率化するツールの選択基準、ツール導入方法などについて提言して頂く。
- ・ 用田敏彦(日立)
失敗事例を共有する組織文化のあり方や失敗事例の活用方法などについて提言して頂く。

参考文献

- [1]デービス、松原訳、ソフトウェア開発201の鉄則、日経BP、1996
- [2]マクコーネル、アルデア・ジャパン訳、ソフトウェアプロジェクトサバイバルガイド、日経BP、1998
- [3]Gamma, E. et al. *Design Patterns: Elements of Reusable Object-Oriented Software*, Addison-Wesley, 1995
- [4] Standish Group, CHAOS Chronicles II, 2001